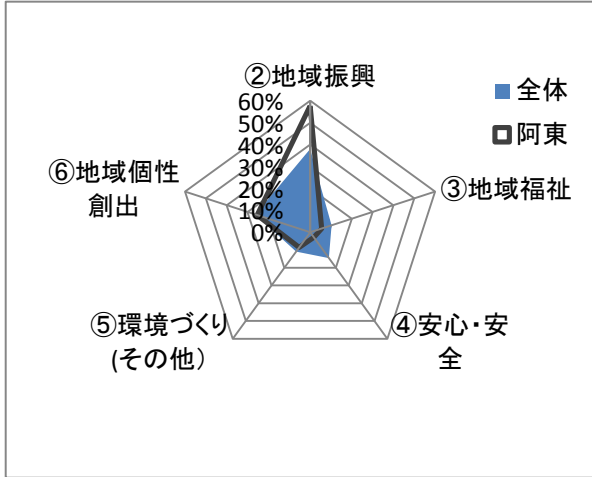


# 阿東地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成27年度)

## ■地域の情報

地域人口	5,664人	自治会数	123
世帯数	2,461世帯	自治会加入率	99.19%

※数値は、平成28年4月1日のもの



## ■決算状況

交付金配分枠	18,831,000 円
交付金決算額	13,932,286 円
その他収入	1,731 円
交付金決算額／配分額	74.0%

## 各分野の決算

①協議会運営	6,321,965 円
②地域振興	2,878,425 円
③地域福祉	275,957 円
④安心・安全	142,042 円
⑤環境づくり(土木工事)	2,624,000 円
⑤環境づくり(その他)	423,729 円
⑥地域個性創出	1,267,899 円
決算総額	13,934,017 円

## ■地域づくりの活動方針(テーマ)

【キャッチフレーズ】…考えてみよういね、やってみよういね、美緑あるあとうまちづくり  
 【メインテーマ】…安心安全で住み続けられる阿東づくり

## ■総括

阿東地域づくり協議会では、急激な人口減少、少子・高齢化に地域をあげて対応するため、「安心安全で住み続けられる阿東づくり」をメインテーマに掲げて、地域課題解決に取り組んできた。その中では、5年先、10年先を見据えたまちづくりを住民自らが話し合う阿東地域再生計画策定委員会を立ち上げ、答申を受けている。阿東地域づくり協議会が発足し5年が経過し、課題解決に向けた様々な取り組みを通じて、阿東地域づくり協議会の組織体制、交付金、事務局体制、規約等の見直しが必要であるという結論に達した。  
 平成28年度は、これらの見直しを行うとともに、平成29年度からの地域づくり計画の策定を通じて、地域を目指すべき将来像を明確にし、地域づくり活動への住民の参画を促進する。

## ■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費、事務費
② 地域振興	<p>【各地区協議会集約分】                      生雲ふれあいフェスタ【生雲】、サマーナイトフェスタ【生雲】、新春交流会【生雲】、夏祭り盆踊り大会の活性化【地福】、トイトイカップ開催【地福】、徳佐夏祭り【徳佐】、夢あしたのふるさと 小中学生夢の絵【徳佐】、旧亀山小閉校10周年事業【徳佐】、嘉年ふれあい運動会【嘉年】、グラウンドゴルフ大会【嘉年】、笑顔の写真【嘉年】、生雲広報誌発行【生雲】、地福パンフレット作成【地福】、ふるさとカレンダー作成【地福】、地域だより発行【徳佐】、篠生コミュニティセミナー【篠生】、夢プランづくりへの取り組み【地福】、サンタクロース招聘事業【地福】、オリジナルキャップ作成【地福】</p> <p>【阿東全体分】                      嘉年かかしまつり、阿東〇〇市で盛り上がろう、ほたる鑑賞会、山口市民体育大会への参加、地域広報誌発行、阿東立志セミナー開講事業、策定委員会、渡川城遊歩道整備、観光お土産品製作事業、明治維新150年記念事業、人材発掘定住促進事業、生雲地区民交流ゾーン整備事業、船平山整備事業</p>

③	地域福祉	【各地区協議会集約分】 地福いきいきフェスタ【地福】、ミニトランポリン教室開催【地福】、福祉的まちづくりを考える会【徳佐】、健康づくり講演会【徳佐】、三世代親睦交流会【篠生】、三世代交流会【徳佐】 【阿東全体分】 チャレンジデー関連事業
④	安心・安全	【各地区協議会集約分】 防災啓発活動【嘉年】、自主防災組織図パネル【嘉年】、集落点検活動の推進【地福】 【阿東全体分】 自主防災組織図ボード、防災実動訓練
⑤	環境づくり	【各地区協議会集約分】 小中学校奉仕活動支援【徳佐】、地域清掃活動【生雲】、環境美化実施団体補助【地福】、日本一美しい景観づくり【篠生】、和田山公園整備【嘉年】 【阿東全体分】 JR沿線環境整備事業、国道315号花壇整備、クリーン作戦、土木工事(単市・法定外)
⑥	地域個性創出	【各地区協議会集約分】 肝だめし会【生雲】、子供みこし【生雲】、生雲どんど【生雲】、花車巡行【生雲】、はやしだ支援【徳佐】、どんど焼き【徳佐】、七夕ちょうちん【篠生】長門峡もみじ祭り【篠生】、バリトンコンサート【徳佐】、読み聞かせ「ポケット」【生雲】、読み聞かせ親子塾【徳佐】 【阿東全体分】 地域文化の調査、山口市誕生10周年記念式典、生雲団七踊り保存・伝承事業、お田植えまつり、阿東古墳まつり、阿東花写真コンテスト、センターまつり、ふるさとづくりコンサート事業、ステージひな壇、コンサート運営企画、アドベンチャースクール支援

## ■重点的に取り組んだ事業

事業名	明治維新150年記念事業	決算額	235,904円
①	<p>目的</p> <p>阿東地域における明治維新を中心とした、歴史、文化、伝統を再発見し、地域愛を育み地域活性化を推進することを目的とする。</p> <p>実施内容</p> <p>①旧街道バスツアー(モニターツアー) 幕末・維新にゆかりのある場所をめぐるバスツアーを実施し、地域資源の再発見につなげる機会を創出した。参加者にアンケートを実施し、今後の地域づくり活動に参考となる意見集約を行った。</p> <p>②案内板作成設置 明治維新ゆかりの地を紹介する案内板を作成し、3か所へ設置した。</p> <p>実施時期</p> <p>①旧街道バスツアー 平成27年9月12日 ②案内板作成設置 平成27年8月</p> <p>参加人数</p> <p>①旧街道バスツアー 61名(うちスタッフ13名) ②案内板作成設置</p> <p>成果</p> <p>旧街道バスツアーの実施に関しては、地域外からの申し込みも多く明治維新に関する歴史や史跡を地域外にもPRする良い機会となった。 阿東地域内3か所に設置した案内板では、明治維新ゆかりの地を紹介するとともに、阿東の観光名所を表記することで阿東を訪れた方に対して、地域資源のPRにつながった。</p> <p>評価</p> <p>阿東地域内外からの参加者が今事業を通じて交流を深め、引き続き阿東へ訪れるきっかけになったほか、地域住民にとっても地域内に存在する明治維新に関する地域資源を再発見することができた。</p> <p>今後に向けて</p> <p>今事業を通じて地域住民に再認識された明治維新に関する阿東地域の各スポットを、地域資源として活用し地域づくりの取り組みを進めることで、引き続き明治維新に関する取り組みを継続していきたいと考えている。 また、地域外に対してはこれらを観光資源として位置づけ、阿東地域内の観光地と組み合わせることで地域活性化につなげていくことに取り組む予定である。</p>		

	事業名	山口市防災実動訓練	決算額	30,374円
	目的	市民参加型防災実動訓練を実施して、行政と地域との連携要領について確認し、各種災害に備えるとともに自主防災組織とあいまって、地域住民の防災意識の高揚を図る。		
	実施内容	避難訓練等(情報伝達訓練、避難訓練、炊出し訓練) 救助訓練(ヘリコプター救助実演) 防災講話 展示・体験ブース 中学生研修 その他		
	実施時期	平成27年10月25日		
	参加人数	約600人		
②	成果	避難訓練では、阿東自治会連合会等の協力により、282名の参加があった。また、中学生研修では2中学校等の協力により、173名の参加があった。実動訓練を通じ、各種団体の連携・協力により多くの参加があり、防災意識の高揚に寄与したと考える。		
	評価	市が主催の防災実動訓練であったが、関係機関、各種団体の連携・協力により、多くの参加者があり、事業実施に当たり関連団体の意見を聞いて、事業を組み立てたことも評価できる。特に中学生研修では、「中学生は助けられる側でなく、助ける側の立場にいる」という認識のもと、研修が行われたことが大変意義深いものであった。		
	今後に向けて	阿東地域の安心・安全を考えていく中、様々な課題があり、この課題を解決するためには、行政と地域の連携、地域内の各種団体の連携が必要である。地域内連携については、地域・地区・単位自治会等に段階をわけ、話し合いをすることが不可欠であり、各種団体においては、相互に特性を理解し、尊重して、役割分担を行っていくことが重要である。今後は、情報共有化し、巻き込む主体を明確にして話し合いすることが大切である。		
	事業名	阿東立志セミナー開講事業	決算額	150,000円
	目的	「阿東地域の未来を考える」をテーマに、セミナーや検討会、研修視察を行い、若い世代の親睦や交流を深めつつ、次世代のリーダー育成に努める。		
	実施内容	・セミナーの開催 阿東の地域課題を抽出し、その解決方法を考えるセミナーを開催 ・研修視察の実施 鹿児島県鹿屋市柳谷地区		
	実施時期	平成28年1月～3月		
	参加人数	延べ60人		
③	成果	現実的な地域の課題を考えることがなかった世代が、現状分析を通じ、地域の現実に目を向け、真剣に未来への取り組みを考える機会となった。若い世代が集まり、意見を出し合うことで、各地に点在している人を知ることができた。		
	評価	研修視察先の鹿児島県鹿屋市柳谷地区の取り組みに感銘を受けたと同時に、参加者それぞれが行ってきたこと、行おうとすることにリンクすることが多く、非常に有意義な視察となった。		
	今後に向けて	今回セミナーに参加した多くの人が生涯阿東地域で暮らすことを望んでいる。その世代が取り組みたいことや、意見、考えなどを表に出し、実行する機会が残念ながらない。これまで地域を支えていただいた世代の功績や、ご意見、協力は必要不可欠であるが、これからの阿東になう世代が考える、陳情や要求ではない「まちづくり」の声を聞いてもらえるようにしていきたい。		